

アイヌの民族観と立場

文化理解ゼミ アイヌ班

1. はじめに

私は古くからアイヌ文化が伝わる阿寒湖温泉で生まれ育ち、幼いころから伝承活動に励んでいました。そんな生活をしてきた最中、中学校を卒業しやってきたこの標茶町での生活はアイヌ文化とはかけ離れた毎日でした。標茶町と阿寒湖温泉のギャップを体感した私には、標茶町のアイヌ文化の認知度はどれほどのものなのかという疑問が芽生え、自分の経験やアンケート、アイヌ文化が盛んな地域との比較によって考察していこうと考えました。

2. 研究方法・研究項目

まず初めに、アイヌ文化についての認知度を調べるためアンケートを実施しました。(図1)

質問1：アイヌ文化を知っていますか？

質問2：アイヌにどんなイメージを持っていますか。

質問3：アイヌについて自由に記載してください。

結果質問1に対し、全校生徒の約7割が知っている、約3割が知らないと答えており(図2)、質問2に関してはアイヌ民族の生活習慣についての記載がされていることから単純な認知度は高いことがわかりました。

また質問3には「アイヌ文化の存在は知っているが、実際に体験したことがないので体験してみたい」という興味深い記載がありました。

アイヌアンケート

こんにちは！アイヌ文化研究ゼミです！

アンケートを通じて皆さんの感想、意見を聞き、発表の際に役立てたいと思います。

ご協力お願いします！

1. アイヌ民族、アイヌ文化を知っていますか？

(知っている人は1-2へ) 知っている 知らない

1-2. アイヌ民族についてどんなことを知っていますか？

2. アイヌをふくめ、先住民族にどんな印象をもっていますか？

3. 何でも自由に記載してください。(質問、アイヌについて等)

ご協力ありがとうございました。

図1 アンケートの画像

このアンケートの結果に基づき企画を実施しました。

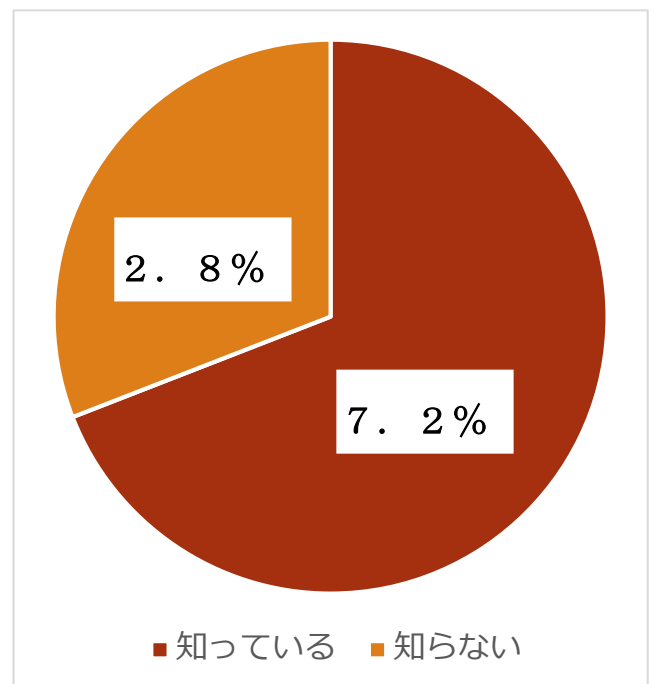


図2 質問1のグラフ

企画：アドバイザー派遣事業（図3）

内容：アイヌ文化財団から派遣されたアドバイザーによるアイヌ文化についての講話、食品ゼミ鹿班と連携を取り、鹿革をもちいた刺繍作り、アイヌ民族の伝統楽器ムックリの作成



図3 体験の様子

3. 考察

標茶町でのアイヌ文化の認知度について、私はどこを取って認知されていると断定するか悩みましたが、アンケートや企画を通して私は「理解」はあっても「知識」はないのだと感じました。

しかし意外なことに、「アイヌ文化を体験したい」という声が多数あり、それに基づいた企画を実施したことで、「アイヌ民族の日常で使えるアイヌ語をたくさん学び、会話で使うことができた。」や「アイヌの刺繍を入れながら、刺繍に込められた意味を理解することができた。」など確かな知識を会得したという肯定的な感想を聞くことができました。

4. まとめ

標茶町でのアイヌ文化の認知度はアイヌ文化が盛んな地域よりも圧倒的に低いものでしたが、アイヌという民族の存在自体を知っている人は意外なことに多く、とても驚きでした。

そのことから「アイヌ民族」という存在の知識ではなく、中身である文化を知ってもらうべく企画を実施し、深い認知をしてもらうことができました。

5. おわりに

ゼミという初めての取り組みを私の今までの生涯のルーツであるアイヌ文化を題材とし、アイヌゼミとして立ち上げましたが、私にとっては挑戦のようなものでした。

アイヌ文化が盛んな阿寒湖温泉からこの標茶町に拠点を置き、自分の力のみでどれほど文化を広められるのか。様々な不安がありました。一年を通して活動を終えた私はアイヌ文化に対し畏敬の念を払った生徒がたくさんいることにとても感激しています。

とても小規模な活動となりましたが、個人的にはとてもいい経験ができたと思っており満足です。活動に協力してくれた皆さん、先生方、たくさんのご支援ありがとうございました。